

関谷先生講評

あらためて提言書の内容を拝聴していて、凄いものができたなという印象を持っております。

富里市に住んでいるという視点から、今何が必要とされているのが率直に出されている。

住民の視点を入れて、みんなに読まれる。それ以上に地域に生きた計画になる。そういう意味で市民会議の提言書が持つ意味はすごく大きなものがあります。

今回の会議のやり方が良かったのは、始めからお互いを否定することをしない。それぞれが思っていることを自由に出し合い、それぞれの意見を尊重していく。これが市民参加型で組み立てていく大事なコツだと思います。

その中から問題というものが共有でき、信頼関係も生まれていきますし、そういったものがこれまでの数ヶ月の議論中で共有されてきたというのは、非常に大きな意味を持つと思います。

まちづくり班の提言では、農業というものがこの富里市の魅力になっているという事だと思います。所与の資源といったものをどれだけ自治体なり地域の中で重視され、生かされているのか、あるいはこれから生かされていくのか、農業という視点は単なる農業ということではなくて、広がりを持ったものなのだとあらためて実感しました。

しかも、富里市の歴史を考えれば、まさにそういう農業に関する履歴というものを持っているわけです。そういうものをどういうふうに活かしながら、目玉としてこういった資源を活かしていけるのか。それに携わる色々な人々、そこから生み出される各方面への広がり、いろんなものが資源でありますし、それをどういうふうに発見し、育て、つないで、色々な動きにしていけるか、こういったことが問われているのだと思います。

くらしづくり班の方ですが、やはり地域コミュニティのあり方というものがベースにある。

現在はまだまだ地域コミュニティというものが、十分な活性化というものを見せていない。どの自治体も同じ課題をかかえているのです

けれども、地域コミュニティには色々な資源が眠っているわけです。そういうものがまだバラバラな状況にある。自治会活動一つをとって見ても、担い手の問題、広がり的问题ということでも、色々な問題をかかえているのが現状です。

提言の中にありましたが、地域コミュニティをどの様に豊かなものにしていけるのか。自治会というものが持っている意味というものが、富里市にとってはすごく大きいという印象を持ちました。やはり、これまでの活動の蓄積というものが確実な形となっている。ただ、このような社会状況の中だから自治会が単独で出来ることと出来無いことなど、色々なものが同時に見えてきて、色々な人たちが相互に補完しあう必要が生じています。例えばNPOとかボランティアとか、自治会とは違う形で、価値観で、活動されている方が増えている。そういう方々と自治会がどういうふうに結びつきうるのか、やはりこういうところにも係わってくる。

最後に、こういう提言というものを踏まえて、行政、議会それから市民の方々にどう言う事が求められているのかを申し上げておきたい。

行政では、提言書で出された一つ一つの文言であり、視点であり、表現内容、持っている可能性、これは行政が単独で立てる計画とは全然違うところがある。この違いを考えることが今の行政にとって大事なことです。

今、協働のまちづくりということで求められていることは、行政の考え方の違い、視点の違い、手法の違いを融合させていこうと。そういう事が今問われている。そういう課題があるのだと思います。

提言書は、住民の生活という視点からいろんな項目が出ているということが重要なこと。住民の生活からかけ離れた計画というのは、まったく意味を持たない。だからこれが十分に反映されていくということとを切に願うところです。

次に議会ですが、議会には、このまちが今どのような課題を抱えているのかということとを議員の立場として住民に発信していく。発信しながら行政をチェックしていくとか、事業のあり方をチェックしていく。もう一つは、まさに代表者として公的な立場として最終的な意思決定をする。議論するという部分と意思決定をする。これが2つの大

きな役割としてある。

協働のまちづくりというのは、議員が本来やるべきいろんな意味での問題提起や議論を活性化させていく、これとピッタリ一致するはずなのです。

協働のまちづくりの市民参加で重要なのは、考えるそのプロセスが充実しているかどうかというのが問われている。色々な人たちがいろんな意見を言って、いろんな議論をしていく。これが住民参加型のまちづくりだと思うし、そういう声を聞いていけるかが議員の役割であると思います。そういう声を聞いて初めてこのまち全体の意思決定ができるはずです。そういう声を聞かずに、そういうプロセスを見ずに、意思決定をすることは、本来の議員の役割を果たしていないのではないかと、という逆の批判にさらされることになるので、議会とはそういう課題にさらされていると思う。ですから、議員に方々にもこの提言書を熟読していただいて、生活目線からの議論を盛り上げていただければと思います。

最後、市民ですけれども、こういう議論というものを今後住民が相互に発信して行けるかどうか益々問われてくると思います。皆さんは正にそういうことをやっていくファシリテーター的な位置付けになっていると言っても過言ではないと思います。

ここで知りえたことを伝え合っていく中で、また何が生まれてくるのか分からない。この動きを活性化していく事になるのだろうと思います。そのためにも、そういった機会とか場というものを行政が側面的に支援していくことと合わせて、そういった議論の活性化というのが益々なされていくことを願っている次第でございます。

こういうすばらしい提言書が出たということは、富里市にとって画期的であり、先駆的な試みをされたと思いますので、より良い計画となることを期待します。